



親の介護と終活に備えるために

介護者メンタルケア協会代表 橋中今日子

「親にどう終活を促せばいいか」という質問をいただくことがあります。親が終活に積極的だと、今後の介護や相続に備えた対策が取りやすいです。しかし、それほど関心を持っていない親に対して介護や死後の話題を切り出すのは「親の機嫌を損ね、関係性が悪化するのではないか」と不安になることでしょう。

1人の人間として

関心を持つ

根強いコミュニケーションが求められます

終活の話題は深刻なものばかりではありません。例えば、好きな音楽のジャンル、趣味、交流関係、好物、思い出の場所など、親の人となりやこれまでの人生について話を聞くことも終活につながります。

私自身、母が病で倒れて意識不明になった際、「もしものときに、どこまで治療するか」と医師に尋ねられ、「母が本当に望んでいることは何だろうか？」と悩みました。そして私は、1人の人間としての母の姿をそれまでほとんど知らなかったことに気がきました。

気軽な話題から

人となりを知っていく

ご両親の趣味や友人関係について話を聞くことから始めてみませんか？

子どもの頃の思い出や印象深いエピソードなどを聞くことは、両親の価値観や死生観を知ることにつながるだけでなく、これまで見たことがなかった親の一面を知り、心の距離が縮まることもあります。

終活の目的は、相続や老後の資金問題を解決することだけではなくありません。家族との相互理解や関係性を深め、より充実した生活を送ることも、大切な目的の一つです。終活の話題を切り出せずに迷っている方は、まずは趣味や交友関係の話題から対話を始めてみましょう。また、子の自分が先に終活に取り組み、その体験を共有するのもいいですね。

終わるための活動 終活 残された人生をどう生きるか

JA菊池斎場「虹のホール」では、ご要望に応じて「お葬式講座」を開いております。3月には久米2区ふれあい会の14名の方が、会場の「とよみず法事会館」を訪れ、お葬式のあれこれを学んでいかれました。

葬儀の意味合い・役割

終活とは？

エンディングノートって？

臨終・安置、通夜・葬儀、葬儀後は？など、

虹のホールスタッフが説明しました。また、湯灌サービスの会社(株)サーブより来ていただき、湯灌への想いを話していただきました。その中で、大好きだったおじいちゃんの話がされました。病気で苦しいまま亡くなられ、その顔が怖くてちゃんとお別れが出来なかったことが心残りとなり、おじいちゃんとの距離が空いてしまったとのこと。その後「湯灌」と出会い、この仕事に就かれたとのことでした。大切な方とお別れを穏やかに過ごしてほしいと思いを込めているとのこと。また、子どもたちに「亡くなる」ということを伝えていかなければならないのではないかとも話されました。



JA菊池斎場「虹のホール」では、湯灌は葬儀プランに含まれており、体験された喪家様からは大変好評をいただいております。また、各斎場の見学や事前相談も年中無休で随時承っております。お気軽におたずねください。



虹のホール 杉並 TEL:096-294-1059
虹のホール とよみず TEL:0968-38-1059
虹のホール わいふ TEL:0968-23-1059
とよみず法事会館 TEL:0968-23-8100